



1 峰 竜太 佐賀
893P
8.40 22 18 8 2



2 毒島 誠 群馬
877P
7.65 23 15 9 3



3 馬場 貴也 滋賀
817P
7.43 26 15 9 2



4 菊地 孝平 静岡
744P
7.40 23 16 6 2



5 池田 浩二 愛知
739P
7.81 22 14 9 1



6 西山 貴浩 福岡
687P
7.49 20 14 6 2



7 瓜生 正義 福岡
658P
7.21 22 13 5 2



8 丸野 一樹 滋賀
654P
7.06 16 9 6 3



9 関 浩哉 群馬
650P
7.26 20 10 7 2



10 茅原 悠紀 岡山
614P
7.76 18 9 6 2

ポイント				
勝率	出場	準優	優出	優勝

部門1位			
勝率	峰 竜太	8.40	
1着回数	馬場 貴也	60回	
2着回数	峰 竜太	49回	
3着回数	松井 繁	49回	
1着率	峰 竜太	30.9%	
2連対率	峰 竜太	58.0%	
3連対率	峰 竜太	74.6%	
優出回数	池田 浩二	9回	
	毒島 誠	9回	
	馬場 貴也	9回	
優勝回数	毒島 誠	3回	
	丸野 一樹	3回	
出走回数	馬場 貴也	215走	

(率関係は全て100走以上の選手限定)

順	選手名	支部	得点	勝率	出場	準優	優出	優勝
11	桐生 順平	埼玉	612	7.90	14	10	6	2
12	松井 繁	大阪	569	7.17	25	15	4	1
13	上條 暢高	大阪	567	7.19	20	10	6	1
14	宮地 元輝	佐賀	562	6.78	22	13	5	1
15	山口 剛	広島	556	7.55	19	8	5	1
16	前田 将太	福岡	537	7.31	21	12	4	1
17	佐藤 翼	埼玉	528	7.10	20	11	6	0
18	坪井 康晴	静岡	523	6.88	22	9	7	0
19	平本 真之	愛知	522	6.93	22	12	6	0
20	河合 佑樹	静岡	499	7.24	14	8	3	2
21	吉川 元浩	兵庫	493	6.98	23	10	5	0
22	遠藤 エミ	滋賀	488	6.98	17	9	3	2
23	白井 英治	山口	487	6.90	21	13	4	0
24	吉田 拓郎	岡山	480	6.90	18	7	3	2
25	濱野谷 憲吾	東京	468	6.95	20	11	3	1
26	深谷 知博	静岡	460	6.84	22	9	3	1
27	片岡 雅裕	香川	459	6.60	23	8	5	0
28	土屋 智則	群馬	457	6.78	20	8	4	1
29	森高 一真	香川	451	6.77	20	15	3	0
30	上野真之介	佐賀	437	7.58	14	7	4	0
31	宮之原 輝紀	東京	424	6.87	18	10	4	0
32	定松 勇樹	佐賀	421	7.11	18	6	3	1
33	湯川 浩司	大阪	419	6.60	16	5	3	2
34	篠崎 元志	福岡	415	6.78	22	11	3	0
35	田村 隆信	徳島	397	6.51	17	7	3	1
36	寺田 祥	山口	395	6.66	21	7	4	0
37	島村 隆幸	徳島	394	6.73	19	9	2	1
38	新開 航	福岡	368	6.47	17	5	3	1
38	磯部 誠	愛知	368	6.70	23	9	2	0
40	齊藤 仁	東京	367	6.78	16	8	3	0
41	山崎 郡	大阪	364	7.11	15	7	1	1
42	仲谷 颯仁	福岡	354	6.81	14	8	3	0
43	渡邊 優美	福岡	347	7.01	9	3	3	1
44	新田 雄史	三重	342	6.69	16	5	2	1
45	原田 幸哉	長崎	329	6.34	15	7	1	1
46	長田 頼宗	東京	328	6.84	21	9	1	0
47	井口 佳典	三重	327	6.54	21	9	2	0
48	椎名 豊	群馬	326	6.38	15	6	3	0
49	守屋 美穂	岡山	324	7.09	7	5	2	1
50	三浦 永理	静岡	318	7.26	8	3	3	1

CHECK

*峰竜太が2年連続のトップだが、2024年はSG制覇がなく、GIも1、2月に優勝したのみで例年ほどのインパクトはなかった。ただ、勝率は変わらず高く、1着率から3連対率までいずれもトップと舟券貢献度の高さはさすが。まだまだボート界を引っ張って行くべき存在で、峰の活躍なくしてボート界は盛り上がらないのも事実。

*SG初優勝者は定松勇樹、河合佑樹、前田将太で2023年と同じ3人。定松は登録5千番台の選手として初のSGウイナーに。GI初優勝者も山崎郡、入海馨、吉田裕平の3人と昨年の6人から半減。2年前は12人もいたので4分の1という少なさだった一方で、GIIの方は渡邊優美、下條雄太郎、片橋幸貴、奈須啓太と4人の記念初優勝者が生まれた。

*GII以上は昨年と同じく57開催。インの優勝は43回で優勝率は約75%と3年ぶりに高い水準に戻った。そのうち、予選トップからの王道優勝は35回だった。インの次に優勝が多かったのは3コースの5回。2コースが4回、4コースが3回で続き、5、6コースは1回ずつ。5コースの優勝は関東ダービーの濱野谷憲吾、6コースの優勝は宮島MB大賞の下條雄太郎。罰則規定ありのFは18本と昨年より7本も増加。ただ、SGでは守屋美穂と菊地孝平の2人だけ。優勝戦のFも宮之原輝紀と金子拓矢(どちらもGI)の2人だけだった。

2024

年間
ランキング

一般編

 1113P 8.02 120 24 18 8	 1067P 6.85 99 29 17 9	 999P 7.56 111 25 22 4	 976P 7.24 88 26 15 8	 964P 7.66 96 25 19 5
 932P 7.24 98 26 16 6	 931P 8.00 105 23 14 6	 910P 7.28 71 21 12 9	 904P 7.53 100 28 15 5	 890P 7.65 76 19 14 7

ポイント
勝率 1着 出場 優出 優勝

部門1位			
勝率	毒島 誠	9.17	
1着回数	中辻 崇人	120回	
2着回数	西島 義則	80回	
3着回数	妹尾 忠幸	82回	
	安東 幸治	82回	
1着率	毒島 誠	68.3%	
2連対率	毒島 誠	87.8%	
3連対率	毒島 誠	97.6%	
優出回数	松村 敏	22回	
優勝回数	菅 章哉	9回	
	豊田健士郎	9回	
出走回数	石川 真二	328走	

順位	選手名	支部	得点	勝率	出場	準優	優出	優勝
11	久田 敏之	群馬	886	7.67	82	22	16	5
12	今泉 友吾	東京	879	7.25	86	26	16	5
13	塩田 北斗	福岡	878	7.46	104	28	14	5
14	船岡洋一郎	広島	866	7.27	79	24	13	7
15	池永 太	福岡	864	7.41	76	21	17	5
16	前田 篤哉	愛知	860	6.97	101	28	16	4
17	佐々木康幸	静岡	833	6.93	81	26	14	5
18	岡村 慶太	福岡	829	7.21	89	29	19	2
19	渡邊 雄朗	東京	823	6.82	90	32	13	5
20	上野真之介	佐賀	800	7.81	75	20	13	5
21	上條 嘉嗣	大阪	794	6.96	89	29	17	2
22	岩瀬 裕亮	愛知	792	7.25	75	24	13	5
23	若林 将	東京	790	7.02	82	25	11	6
24	河合 佑樹	静岡	776	7.70	74	19	14	4
25	海野康志郎	山口	770	7.47	71	22	14	4
26	出畑 孝典	福岡	769	6.70	93	31	12	4
27	守田 俊介	滋賀	753	7.95	67	15	10	6
28	竹井 貴史	福岡	748	7.17	82	25	14	3
29	谷野 錬志	静岡	747	6.91	71	24	13	4
29	河村 了	愛知	747	7.00	69	26	17	2
31	守屋 美穂	岡山	745	7.47	75	19	13	4
32	藤原 碧生	岡山	740	6.92	91	27	9	5
32	和田 兼輔	兵庫	740	6.77	69	29	13	4
34	笠原 亮	静岡	739	7.26	61	19	12	5
35	小野 達哉	大阪	734	6.92	101	31	12	3
36	吉田 俊彦	兵庫	729	6.69	47	17	12	6
37	藤岡 俊介	兵庫	728	7.28	89	25	12	3
38	平田 忠則	福岡	726	7.12	73	26	14	3
39	三角 哲男	東京	723	6.61	51	26	14	4
40	黒野 元基	愛知	710	6.73	77	26	11	4
41	杉山 正樹	愛知	710	6.98	88	27	14	2
42	山田 哲也	東京	708	7.11	92	24	10	4
43	高倉 和士	福岡	706	7.19	67	22	16	2
43	山田 康二	佐賀	706	7.84	74	16	9	5
45	細川 裕子	愛知	704	7.00	77	26	12	3
46	渡辺 浩司	福岡	700	7.16	76	29	15	1
47	春園 功太	三重	699	6.79	80	30	16	1
48	萩原 秀人	福井	698	7.14	58	18	11	5
49	石橋 道友	長崎	682	7.20	72	24	12	3
50	桑原 悠	長崎	681	7.44	55	17	12	4

CHECK

*昨年は2位だった中辻崇人が初のトップに輝いた。伸び型のペラを手の内に入れた2年前から一般戦では無双状態になり、前期はF2もあって実働9か月だったが、それでも優勝8回、1着は120本で年間最多勝利のタイトルも獲得。今年に入っても3か月の休み明けからいきなり児島と常滑で連続優勝を飾っており、しばらくは最強の一般戦の鬼として君臨しそう。

*優勝回数ではその中辻崇人さえも上回ったのが菅章哉。前期の期初め、多摩川オールスター前後にはスランプに陥りA2級さえ危ういほどの勝率の時期もあったが、夏前に立ち直って7月以降はほぼ月イチペースで優勝を積み重ねた。同じく9回優勝した豊田健士郎は12回の優出なのでV確率は75%という勝負強さ。9回のうちイン以外でも3回の優勝がある。

*支部別では相変わらず福岡支部が強く、昨年より2人増えて12人がランクイン。A1級になってどれだけ勝率を残しても記念にはなかなか呼ばれない選手が多いのが実情。GIGIIへのあっせんは福岡支部の比率を高くすべきかも。

*一般戦でV5以上の選手は28人。3月若松クラシックの一般戦出場枠は15人だったが、V5でかろうじて出場が確定したのはわずか5人。V5でも実に12人が予備になって地区ダービーの結果待ちになった。